

三十三

海軍機關大佐藤原知親ニ勲章

加授ノ件

右謹テ裁可ヲ仰ク

大正五年九月二十七日

内閣總理大臣侯爵大隈重信



内閣

大正五年九月廿六日

内閣總理大臣 賞勳局總裁



海軍機関大佐正五位勳四等條原智親儀
明治元年四月飛準丸乗組機関司ニ出身
諸官職ヲ經勳勞尠カラズ明治二十五年五
月勳四等瑞寶章ヲ叙賜セラレ翌年六月
豫備役被仰付タル者ニ候處同人ハ明治維
新ノ際甲鐵艦ニ乗組ニ函館戰ニ參加シ殊
功ヲ樹テ賞典高三十石下賜セラレ又龍驤機

賞勳局

関長筑紫機関長常備小艦隊機関長等ノ
要職ニ歷任シ就中龍驤ニ於ケル勤務ハ十五年
ノ長キニ亘リ其間同艦カ屢々練習艦ト為リ帝
國海軍ノ初期ニ際シ一意機関官ノ養成及機関
術ノ發達ニ盡瘁シ其功績顯著ナル者ニ候處
目下病氣ニ罹リ危篤ニ陥リタル趣ニ付右篤
功ヲ録セラレ此際特別ヲ以テ旭日小綬章加授
セラレ度此段允裁ヲ仰ク
追テ右勳章ニ付テハ主務省ト協議濟ニ
有之候

九月二十七日

めくれず

大正五年九月廿六日

賞勳局



内閣總理大臣 閣下

賞勳局總裁



海軍機関大佐正五位勳四等條原智親儀
明治元年四月飛準丸乗組機関司ニ出身
諸官職ヲ經勳勞尠カラズ明治二十五年五
月勳四等瑞寶章ヲ叙賜セラレ翌年六月
豫備役被仰付タル者ニ候處同人ハ明治維
新ノ際甲鐵艦ニ乗組ミ函館戰ニ參加シ殊
功ヲ樹テ賞典高三十石下賜セラレ又龍驤機

賞勳局

関長筑紫機関長常備小艦隊機関長等ノ
要職ニ歷任シ就中龍驤ニ於ケル勤務ハ十五年
ノ長キニ亘リ其間同艦カ屢々練習艦ト為リ帝
國海軍ノ初期ニ際シ一意機関官ノ養成及機関
術ノ發達ニ盡瘁シ其功績顯著ナル者ニ候處
目下病氣ニ罹リ危篤ニ陥リタル趣ニ付右篤
功ヲ録セラレ此際特別ヲ以テ旭日小綬章加授
セラレ度此段允裁ヲ仰ク
追テ右勳章ニ付テハ主務省ト協議濟ニ
有之候

九月二十七日

同日後四位ニ叙セラレ

海軍機關大佐正五位勲四等篠原智親

右者明治元年四月飛準丸乘組機關司被仰付次
テ同二年二月甲鐵艦乘組機關司申付ラレシヨリ海
軍機關大監トシテ在官中明治二十六年六月豫備
役被仰付追職ヲ奉スルコト實ニ二十五年、長
キニ亘リ其間甲鐵艦ニ乘組中函館戰ニ參加シ
殊功ヲ樹テ賞典高三十石下賜、恩典ニ浴シ同
十二年ニハ龍驤乘組大機關士トシテ鹿児島逆
徒、征討ニ從ヒシ功ヲ以テ特ニ勲六等ニ叙シ全
百五十圓ヲ下賜セラレタルコトアリ次テ龍驤機關長
筑紫機關長、常備小艦隊機關長等、要職ニ歷任シ
終始貫クニ至誠ヲ以テセリ特ニ龍驤ニ於ケル勲

務ハ實ニ十五年、長キニ亘リ其間屢々練習艦
トナリ帝國海軍、初期ニ際シテ一意機關官、養
成及機關術、發達ニ盡瘁セル功績ハ永ク没ス
ヘカラサルモ、アリ然ルニ不幸ニシテ病ニ罹リ今
ヤ危篤ニ陥リ到底存命覺束ナク候ニ就テハ
特別、御詮議ヲ以テ勲三等ニ叙シ旭日中綬章ヲ授
賜セラレ度此段及 上奏候也

大正五年九月二十六日

海軍大臣加藤友三郎



内閣總理大臣侯爵大隈重信殿

履歷書

東京府士族

海軍機關大佐正五位勳四等

篠原智親

天保五年癸卯三月廿七日生

年 月 日 事

明治元年 四月五日 飛津丸乗組機関司被申付候事

九月二日 武藏艦隊組被申付候事

九月十六日 横濱出奔脱航感臨丸外一艘討撃、為駿

州清水へ回航

二年 二月二日 甲鐵艦乗組至館出張申付候事

三月八日 呂海出奔箱館脱航追討、為全地へ回航

六月四日 呂海返着

十月 賞典高三拾石三年間下賜候事

明治三年 十月十五日 龍驤艦乗組機械方士官助申付候事

四年 五月十五日 任海軍少尉

五年 八月四日 御巡幸中慰勞トシテ金千足下賜候事

六年 二月九日 任海軍中尉

九月六日 兼任海軍中機関士

七年 二月十四日 免本官專任海軍中機関士

十年 二月九日 西南之役ニ付神戶倉艦同地面艦

十月五日 任海軍大機関士

十一年 七月五日 横須賀へ返着

十二年 二月十日 鹿兒島逆徒征討、際尽力不甚候ニ付叙

勳六等金百五拾圓下賜候事

十七年 十月二十日 龍驤艦乗組被差免候事

同日 補龍驤艦機関長

今十八年六月二十日 任海軍機關少監

十月九日 叙勲五等賜雙光旭日章

十月五日 補筑紫艦機長

今二十年十月二十七日 免本職補高千穂艦機長

今二十一年四月二十七日 免本職補當備小艦隊機長兼高千穂艦機長

艦機長

今二十三年五月十三日 免本職補吳豫備艦機長

九月十七日 任海軍機長

全 日 補吳豫備艦機長

十月二十日 摩耶公試委員被仰付

今二十五年五月十八日 叙勲四等賜瑞寶章

十月二十日 免本職補佐世保豫備艦機長

今二十六年六月一日 豫備被仰付

明治三十九年 一月二十六日 海軍高等武官官階中改正依機長大監機長大佐